



見て、触れて、味わって…極上のふくしまを満喫！

滋賀から 福島へ行こう！

フルーツライン

福島はフルーツ王国です。福島市郊外のフルーツラインでは様々な果物狩りが楽しめます。



円盤餃子

円盤形に丸く並んだ餃子は福島の名物です。

飯坂温泉

飯坂温泉は奥州3名湯に数えられた歴史ある温泉です。

五色沼

五色沼では様々な色合いの沼を見ながらトレッキングを楽しむことができます。

茶室鱗閣

鱗閣は鶴ヶ城にある蒲生氏郷ゆかりの茶室です。

喜多方ラーメン

言わずと知れた喜多方ラーメンはB級グルメの最高峰です。

大内宿

大内宿では江戸時代にタイムスリップしたような気持ちになれます。

磐梯吾妻レークライン

磐梯吾妻レークラインではいつもの湖沼を望む快適なドライブを楽しむことができます。

喜多方(蔵)

喜多方の蔵は現在も使われ続けています。



がんばろう！日本



滋賀県知事
嘉田 由紀子

東日本大震災は、我が国に甚大な被害をもたらしました。特に、福島県におかれては、「地震」「津波」「原発事故」に加えて、原発事故に伴う「風評被害」に苦しまれており、農林水産物や加工食品、県内事業所から出荷される工業製品、さらには観光業への影響など、大きな打撃を受けておられます。

滋賀県は、歴史的にも、蒲生氏郷公や近江商人など、会津地方を中心に福島県とはゆかりが深く、震災発生後は、関西広域連合の一員として、京都府とともに、福島県を支援させていただいています。その一環として、このたび、風評被害に苦しむ福島県の観光産業を応援させていただこうと、「『滋賀から福島へ』観光ツアー推進事業」を企画いたしました。

福島県は、本県の3倍以上の面積を持つ大変大きな県であり、震災の影響をほとんど受けていない地域もたくさんございます。猪苗代湖や磐梯山などの雄大な自然、鶴ヶ城を中心とした会津若松の町並みなどの歴史的風景、あるいは、桃やぶどうなどフルーツが豊富で、美味しい地酒、さらには、日頃の疲れを癒してくれる、名湯・秘湯。「見る、味わう、ほっこりする」、正に、旅の三拍子がそろった福島。本当に魅力あふれる“うつくしま、ふくしま”へ足をお運びいただき、福島県の皆さんと交流を深めていただきたいと思います。旅先での皆さんの笑顔や感動の心は、きっと福島県の皆さんに伝わり、復興に向けた大きな力になるものと考えております。

また、本県へ帰られましたら、福島県での旅の感動、そして現地の正確な状況を周囲の方々にお話してください。そうしていただくことで、身近なところから「風評被害」がなくなっていくことを願ってやみません。

福島県への旅は、今、県民の皆さんにいただける福島県への大きな支援の一つです。皆さんお一人おひとりの旅を通じて、本県と福島県との絆がますます深まっていくことを期待します。

福島県DATA

面積 13,782.75km²
総人口 2,025,461人
(推計人口、2011年2月1日)
人口密度 147人/km²
県の木 ケヤキ
県の花 ネモトシャクナゲ
県の鳥 キビタキ



去
地
方
の
多
方



福島県知事
佐藤 雄平

このたびの東日本大震災では、滋賀県民の皆様から義援金を始めたくさんの御支援を賜りました。福島県民を代表し心から感謝を申し上げます。

今回の震災で福島県は未曾有の被害を被りました。皆様のご心温まる御支援を支えに、福島県民が一丸となって復興に向け全力で取り組んでおりますが、東京電力福島第1原子力発電所事故により、観光事業者を始め商工関係者や農業関係者は風評被害で大変苦しんでおります。

皆様も御承知のとおり、福島県は、浜通り、中通り、会津地方と3つの地域から成り立っており、全国で3番目に大きい県土を有しております。このうち、地震災害や原子力災害の影響が大きい浜通りの一部を除いた地域、主に中通りと会津地方の観光地は被害が少なく大変元気であります。

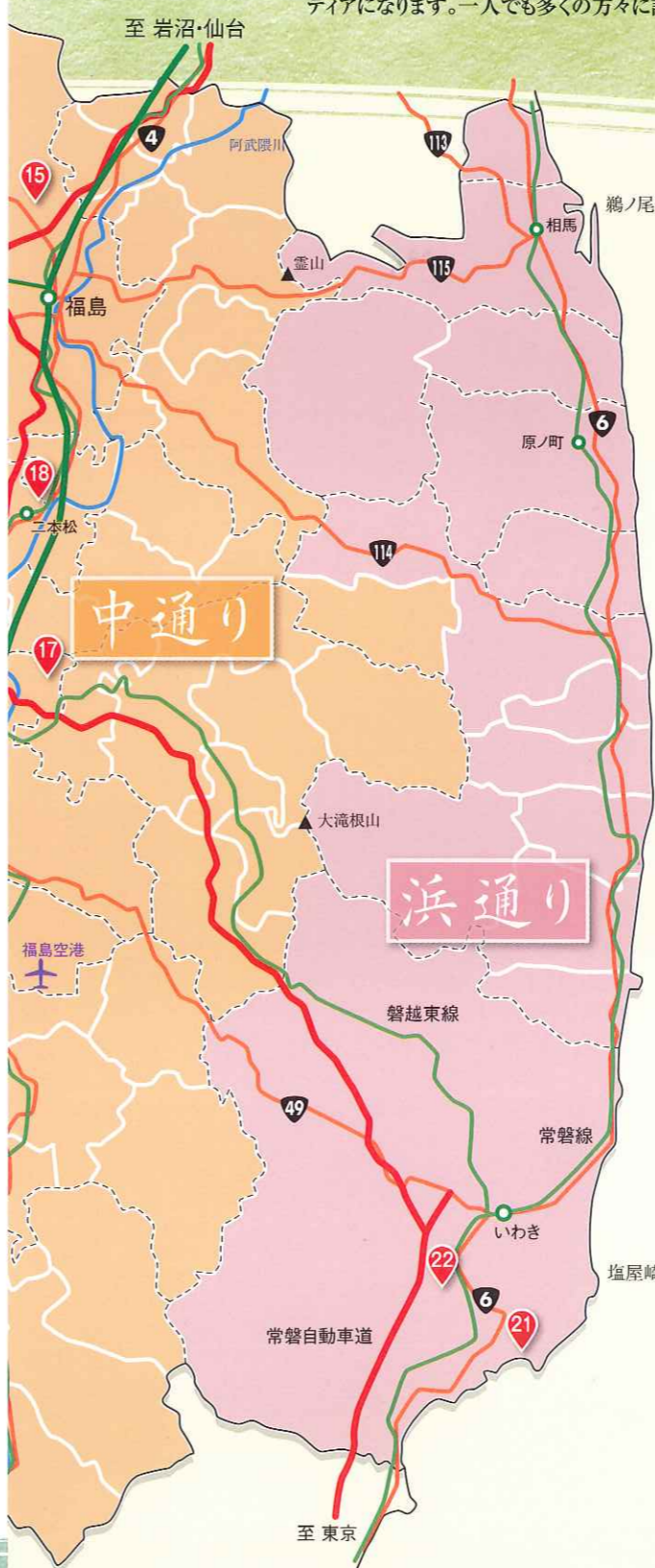
また本県は、桃やぶどう、リンゴなどのフルーツの栽培が盛んであり、昨年日本酒鑑評会において金賞数が日本一になるなど、美味しい食べ物にも恵まれております。

さらには、滋賀県にゆかりのある蒲生氏郷公が会津藩へ移封された際、近江から多くの商人を招き入れ漆器や焼物を振興するなど、滋賀県の先達の皆様が会津地方の地場産業の礎を築いたと言っても過言ではありません。

このように滋賀県と福島県は古くから交流がございます。

今回の応援ツアーをきっかけに、会津地方を中心とする観光地を是非とも訪問していただき、本県の素晴らしさ、真心のこもった「おもてなし」を堪能されるとともに、滋賀県と福島県の絆を更に深めていきましょう。

結びに、本県の観光地を訪れ、皆さん一人ひとりが観光地の正確な状況を積極的に情報発信していただくことは立派なボランティアになります。一人でも多くの方々に訪れていただけるよう皆様のお越しを心からお待ちしております。



会津地方

会津若松

- ① 鶴ヶ城
- ② 武家屋敷
- ③ 茶室麟閣
- ④ 東山温泉
- ⑤ 芦ノ牧温泉
- ⑥ 七日町通り

南会津・西会津

- ⑦ 大内宿
- ⑧ 塔のへつり

猪苗代・磐梯高原

- ⑨ 猪苗代湖
- ⑩ 野口英世記念館
- ⑪ 五色沼
- ⑫ 磐梯山ゴールドライン
- ⑬ 磐梯吾妻レークライン

喜多方

- ⑭ 喜多方の蔵

中通り

- ⑮ 飯坂温泉
- ⑯ フルーツライン
- ⑰ 高柴デコ屋敷
- ⑱ 智恵子生家記念館
- ⑲ 磐梯熱海温泉
- ⑳ 磐梯吾妻スカイライン (吾妻小富士・浄土平)

浜通り

- ㉑ 環境水族館「アクアマリンふくしま」
- ㉒ スパリゾート「ハワイアンズ」

滋賀と 会津の 絆

近江日野、伊勢松坂、そして会津へ。
戦国時代を駆け抜けた
文武両道に秀でた名将。

蒲生氏郷

蒲生氏郷は、織田信長、豊臣秀吉にその才を認められ、常に天下統一の最前線を任されました。わずか40年の短い生涯でしたが、現在にいたる会津若松の基礎を築くなど、氏郷の残したものは今も私たちの生活の中に息づいています。



■蒲生氏郷の生涯

蒲生氏郷は弘治2年(1556年)、近江国日野城主蒲生賢秀の第一子として生まれました。蒲生氏は、琵琶湖の東方に位置する近江国蒲生郡に勢力を誇った一族で、守護六角氏の重臣として力を振っていました。

永禄11年(1568年)、織田信長が近江に侵攻してきたことで蒲生氏の運命は大きく変わります。信長に従うか、六角氏に従うかの選択を迫られた賢秀は、嫡子鶴千代(のちの氏郷)を人質として信長の軍門に降り、以後織田軍団の一員として信長の天下統一戦に参加します。一方鶴千代は、信長の娘と結婚し、成長後は父賢秀と行動をともにします。

天正10年(1582年)、本能寺の

変では明智光秀からの誘いを断り、羽柴秀吉に従います。そして秀吉のもとで天下統一の戦いに参加します。

天正13年(1585年)、小牧長久手の合戦での戦功により、氏郷は近江日野6万石から伊勢松坂12万石へと領地替えとなります。そして九州征伐、小田原征伐を経て、天正18年(1590年)、奥州支配の要として会津42万石の領主となりました。会津では奥州の雄伊達政宗と心理戦を繰り返しながら、やがて92万石に領地を加増され、豊臣政権を代表する大大名となりました。

しかし文禄4年(1595年)、氏郷は京都伏見の屋敷で40歳の生涯を閉じました。天下人のため、常に統一の最前線を駆け抜けた人生でした。

■文化人氏郷

武将として大きな功績を挙げた氏郷ですが、和歌に親しむなどすぐれた文化人としても知られています。なかでも茶の湯は、この時代の武将にとって単なる趣味を超えた政治的営みでしたが、氏郷もまた茶の湯に親しみ、千利休の高弟として「利休七哲」の一人に数えられるほどでした。氏郷自身が作った茶杓も残されています。

■町づくりと産業 ～近江と会津の関わり

氏郷以前の会津若松は、黒川と呼ばれ、葦名氏や伊達氏の小規模な居館がありました。氏郷はこれを石垣と天主、金箔瓦を用いた大城郭に改修し、周囲に城下町を整備しました。そしてこの地を、ふるさ

と近江日野の歌枕である「若松の森」にちなんで若松と名付けました。織田信長は、安土城の麓に城下町を建設し、楽市楽座の掟書を出して城下町の振興を図りましたが、氏郷もそれにならって近江日野、伊勢松坂の城下町に、同様の掟書を出しています。会津についてはそうした掟書は確認されていないものの、城や城下町の様子からは日野、松坂と同様の町づくりが行われたことが想像できます。

また氏郷は、近江日野の伝統産業である日野椀の職人を会津に招き、会津漆器の基礎を作ったともいわれています。このように現在の会津若松の基礎を築いたのは氏郷であり、そこには近江との深い関わりがあったのです。

蒲生氏郷公ゆかりの工芸品

会津漆器(会津若松市ほか)

会津における漆工芸の歴史は古く、中世・芦名時代には漆木栽培を奨励、天正18年(1590年)蒲生氏郷公が会津領主となった際、近江国日野から武器武具の塗師や木地師を招いて当時の最新技術を伝えたことが発展の基礎となりました。

寛永20年(1643年)保科正之公によって漆器生産地としての産業体制化が進められました。今では国の伝統的工芸品として「会津塗」の名で全国に知られています。



会津本郷焼(会津美里町)

会津本郷焼の起こりは古く、文禄二年(1593年)に城主蒲生氏郷が会津領主となってからで、若松城の大改修を行うに当たって、城郭の屋根を瓦葺きとするため播磨国(兵庫)から瓦工を招き、黒瓦を製造したのが始まりとされています。



慶山焼(会津若松市)

会津慶山焼は、文禄元年(1592年)、会津藩主となった蒲生氏郷が城を作る際、屋根瓦を焼かせるために肥前の唐津から陶工を呼び寄せたのが始まりとされています。築城が終わると、次第に茶器、日常使いの器へと製作が移り変わってきました。現在は、全国各地から集まった若者が製作を通してその技を学んでいます。



蒲生氏郷の墓 (会津若松・興徳寺)

弘安10年(1287年)葦名泰盛が鎌倉より大円禪師を招き開山した臨済宗妙心寺派の寺で、秀吉が奥羽仕置のため会津へきたとき3泊したほどの大寺院だった。境内にある蒲生氏郷の墓は、空風水火地の五文字を刻した五輪塔で、京都大徳寺の本墓から分骨、あるいは遺髪を埋めたものといわれている。「限りあれば吹かねど花は散るものを心短き春の山風」の辞世の歌碑がある。寺は戊辰の兵火にかかって焼かれ、昔日の面影はない。



会津地方

会津若松



鶴ヶ城 1
会津若松市のシンボル。蒲生氏郷公の幼名にちなみ「鶴ヶ城」と呼ばれるようになりました。平成23年3月に、瓦を幕末当時の赤瓦に置き替えリニューアルオープンしました。



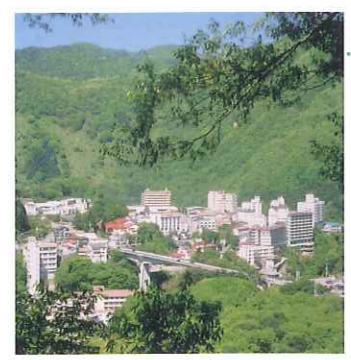
武家屋敷 2
会津藩家老西郷頼母屋敷など貴重な建物を復元しており、武家の暮らしを知ることができます。また、起き上がり小法師絵付け体験やガラス絵彫り体験のほか弓道体験などもできます。



茶室 3
千利休の子少庵が利休亡き後、蒲生氏郷に保護されていたときに本丸内に建てられた茶室です。



東山温泉 4
会津若松市の中心地から車でわずか10分程度の場所にあり、奥羽三楽郷に数えられる歴史ある温泉郷です。竹久夢二や与謝野晶子などの墨客にもこよなく愛された湯の街でもあり、泉質はサラサラの硫酸塩泉です。



芦ノ牧温泉 5
「芦ノ牧」という地名は芦名の牧、つまり芦名家の軍馬放牧場だったことから、この名がつけられたと言われています。大内宿、塔のへつりなどの観光地も近く、会津若松市内からは車で約25分です。泉質は弱アルカリ性低張性高温泉です。



七日町通り 6
毎月7の日に市が立ったことから名づけられた町で、城下町の中心であった大町四ツ角を起点とした会津五街道のうち越後街道・米沢街道・日光街道が通る西の玄関口。現在も昔ながらの蔵や洋館の店が点在しています。

ソースカツ丼 (会津若松市ほか)

会津でカツ丼といえばこちら。大正時代から親しまれてきた会津庶民の味です。ほかほかご飯にシャキシャキのキャベツをのせ、その上にソースに浸した揚げたてのカツをのせる。濃厚なソースとキャベツのサッパリ感が絶妙にマッチし、最後まで飽きずに食べられます。各店こだわりのソースを楽しみながら、豪快に味わいましょう。

会津清酒 (会津若松市ほか)

会津の酒造りは今から400年ほど前、藩主蒲生氏郷が近江から呼び寄せた杜氏によって始まりました。その後、江戸時代には灘から技術が導入されるなど、以後会津藩の産業振興策として大いに奨励されてきました。酒づくりに欠かせない良質の伏流水、肥沃な大地から生まれる質の高い米と、年間を通して寒暖の激しい風土、そして天恵を知る熟練の杜氏の技による丹念な作業が、芳醇でまろやかな酒をかもし出してきました。地元はもちろん、県内外に多くの愛好家を持っています。

南会津・西会津



大内宿 7
茅葺屋根が立ち並び、江戸時代には下野街道の宿場町としてにぎわった集落です。まちなみの両側に土産物屋やそば屋などが建ち並び、景色だけでなく人情味あふれる店主たちとのやり取りまで楽しみたくなる観光スポットです。



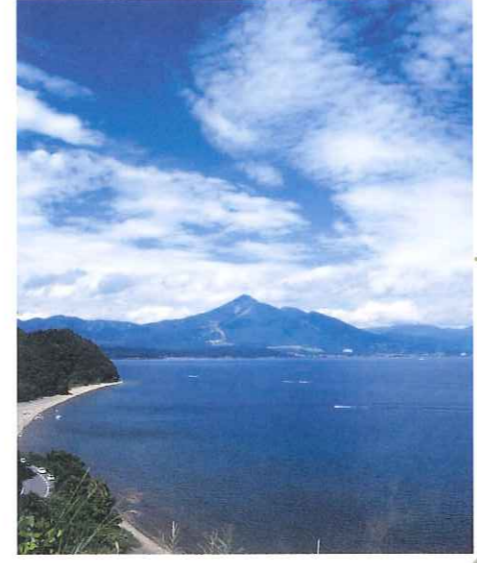
塔のへつり 8
へつりとは方言で川に迫った断崖とか、急斜面の意味です。100万年の歳月をかけて、侵食と風化を繰り返し出来上がった景観は国の天然記念物に指定されています。新緑から深緑へ、紅葉から冬化粧へ色鮮やかに変化する風景を大パノラマで楽しめます。



大内宿 ねぎそば
大内宿のお店の中には、1本のねぎを箸の代わりに使って食べるねぎそばがあります。下郷町内で生産されたそば粉を使って作るそばはコシがあって食べごたえ十分。

会津地鶏
会津で飼育されてきたニワトリで、平家の落人が連れてきたとも言われています。1980年代に絶滅が危ぶまれたものの増殖に成功。会津の新たな味覚として注目されています。適度な歯ごたえがあり、肉本来の旨みが味わえます。焼き鳥は特におすすめです。

猪苗代・磐梯高原

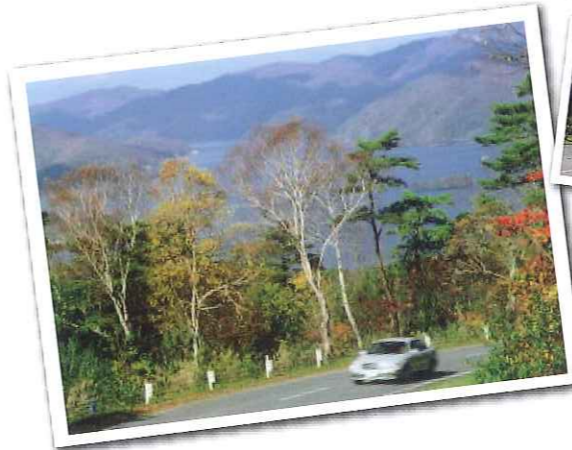


猪苗代湖 9

淡水湖では日本では3番目に大きな湖で、面積は103.32km²、深さは93.5mあります。猪苗代湖の特長は透明度12~15の澄んだきれいな水です。国指定天然記念物のミズシギゴケ群落や白鳥の飛来地として貴重な生態系を保有する区域に指定されています。

五色沼 11

毘沙門沼、赤沼、みどろ沼、瑠璃沼などで構成される湖沼群。天候や季節、水中に含まれるミネラル類によりさまざまな色合いを見せることから五色沼と呼ばれています。明治21年(1888年)、磐梯山の噴火によって形成されました。美しい水辺と豊かな自然を満喫するトレッキングがおすすめです。



磐梯山ゴールドライン 12

磐梯山の爆裂口を間近にとらえ、また遠くに猪苗代湖を望むこの道路は、自然の優しさと感じさを教えてくれる雄大な自然環境が見所です。

磐梯吾妻レークライン 13

磐梯山の噴火によってできた檜原湖、小野川湖、秋元湖等の湖沼群を望むこの道路は、途中に中津川渓谷があり、県下でも有数の渓谷美を誇っています。

喜多方



喜多方の蔵 14

喜多方には、現在も使われ続けている2,600もの蔵があります。また、それぞれの蔵はその用途に応じてバラエティーに富んでいます。



喜多方ラーメン (喜多方市)

言わずと知れた日本三大ラーメンのひとつで、会津を代表するB級グルメです。「蔵の町」喜多方で醸造された醤油と、太めの縮れ麺が大きな特徴。市内には120軒を超える店が建ち並び、それぞれに個性的な味を提供しています。



野口英世記念館 10

黄熱病などの研究で知られる日本の細菌学者で、ガーナのアクラで黄熱病原を研究中に自身も感染して51歳で死去しました。医学研究者としては非常に知名度が高い人物で、2004年より発行されている千円札の肖像になっています。野口英世記念館は昭和14年に開館し、生家と展示室で構成されています。展示室には遺品・資料が展示されており、生家には乳児期に火傷を負った囲炉裏も見学することができます。



黄熱病などの研究で知られる日本の細菌学者で、ガーナのアクラで黄熱病原を研究中に自身も感染して51歳で死去しました。医学研究者としては非常に知名度が高い人物で、2004年より発行されている千円札の肖像になっています。野口英世記念館は昭和14年に開館し、生家と展示室で構成されています。展示室には遺品・資料が展示されており、生家には乳児期に火傷を負った囲炉裏も見学することができます。

ラーメンの町。のどかな田園風景も楽しめます。

のどかなローカル線も人気の奥会津・南会津地域には、江戸時代にタイムスリップしたような大内宿、自然の浸食で特異な地形を形成した塔のへつりなどがあります。貴重な自然を残す尾瀬の玄関口でもあります。

中通り

日本三大桜の一つ三春滝桜や、福島の桃源郷・花見山、二本松の菊人形など、花の名所が多いのがこの地域です。会津と結ぶルートの途中で楽しめる磐梯吾妻スカイラインは、一切経山からの噴煙が見られます。

中通り北部の福島市は観光果樹園が建ち並ぶフルーツラインをはじめ、円盤餃子・安達太良カレーなどB級グルメが盛んです。



フルーツライン 16

福島は果物王国です。福島市の「フルーツライン」と呼ばれる道路沿いには、観光果樹園が軒を連らねており、観光果樹園では旬のフルーツを採取し食べることができます。濃厚でジューシーなフルーツは大人も子どもも大喜び。気に入ったフルーツは、併設されている売店で購入することも可能です。春はサクランボ、夏はモモ、秋はナシ、ブドウ、リンゴなど季節の果実が味わえます。



高柴デコ屋敷 17

高柴デコ屋敷は、三春駒・三春張子の発祥地で、全国的に有名な玩具の故郷です。4軒の家々が数百年の伝統を守り、張子(はりこ)人形や張子面、三春駒などを作り続け、今日に伝えています。人形木型は県重要文化財に指定されています。「デコ」とは人形の事を指します。

飯坂温泉 15

飯坂温泉は、鳴子・秋保とともに奥州三名湯に数えられた温泉で、古くは「鏡湖の湯」と呼ばれていました。1689年には松尾芭蕉が奥の細道の途中に立ち寄ったとされる歴史ある温泉地です。摺上川とその支流赤川の流れを中央に大小さまざまな旅館が軒を並べています。共同浴場が9つ存在しており、温泉街を散策しながら共同浴場を楽しむこともできます。



智恵子生家記念館 18

高村智恵子は福島県二本松市で生まれた、明治時代末期から大正時代にかけての当時としては珍しい女流洋画家で、病に侵されてからは病院で千数百点もの紙絵を制作しました。明治の初期に建てられた生家には、造り酒屋として新酒の醸成を伝える杉玉が下がります。彫刻家の高村光太郎は夫で、智恵子の死後、夫が出版した詩集が「智恵子抄」です。



磐梯吾妻スカイライン(吾妻小富士・浄土平) 20

猪苗代と福島を結ぶ土湯峠に、「磐梯吾妻スカイライン」があります。秋には紅葉が美しく、標高1,500mの浄土平からは、吾妻小富士登山を行うこともできます。高湯温泉から土湯峠へ、吾妻の山並みを縫うパノラマコースで、平均標高1,350mを彩る絶景に何度も訪れる人が多く、「日本の道100選」にも選ばれています。沿線には作家・井上靖氏が名付けた吾妻八景が広がり、噴煙を上げる一切経山、吾妻小富士など見どころ一杯です。吾妻小富士は標高1,707m、中央にある大きな火口が麓の福島市側から見るとあたかも富士山の山頂のように見える日本百名山のひとつです。磐梯吾妻スカイラインの浄土平ビジターセンターから10分程度の登りで火口壁に立つことができる手軽な観光地です。

磐梯熱海温泉 19

磐梯熱海温泉は、月岡・いわき湯本とともに「磐越三美人湯」に数えられています。開湯は800年前であると伝えられており、熱海という地名は、奥州合戦の後にこの地の領主になった、源頼朝の家臣伊東祐長の出身地・伊豆にある熱海温泉に由来しています。南北朝時代から室町時代初期の頃、公家の娘「萩姫」が不治の病にかかり、夢枕に立った不動明王から、都から東北方面に行き、500本目の川岸に霊泉があるというお告げを受けました。これによって当温泉に辿り着いた萩姫は、湯治して全快したと伝えられており、温泉街を流れる五百川という名称は、この伝説が由来となっています。



円盤餃子(福島市)

戦後、満州から引き上げてきた方々が、生活のため飲食業を営んでいたのが始まりで、その後、福島市内で広がっていった餃子が名物の餃子です。特に、フライパンに丸く並べて焼かれた円盤形の餃子を、そのまま丸い皿にひっくり返して盛りつける店の多いことが特徴です。



浜通り

映画フラガールの舞台として脚光を浴びた浜通りの南部いわき市は、風光明媚な海の観光地です。環境水族館アクアマリンふくしまは、他の水族館には無い、生態系を見せるこだわりの水族館です。

環境水族館「アクアマリンふくしま」 21

いわき地方の太平洋は、暖流の黒潮と寒流の親潮がぶつかる海域にあり、その海の生態系を体系的に展示している水族館が「アクアマリンふくしま水族館」です。イルカのショーなど興行的な展示はなく、自然の姿を忠実に再現し、学術的な研究を行っています。自然光が降り注ぐ館内では、植物も展示し、親潮の源流オホーツク海、黒潮の源流域熱帯アジアの自然、福島県浜通りの海山川の生態系を再現しています。また、ワークショップやバックヤードツアーなどのプログラムの他、屋外には裸足になって生き物とふれあえる蛇の目ビーチがあり、見るだけでなく様々な体験ができます。



スパリゾートハワイアンズ 22

いわき湯本温泉の熱を利用してつくられた温泉リゾートが「スパリゾートハワイアンズ」です。館内は1年中真夏、プール・温泉・ポリネシアンダンスなど、ハワイを満喫できるテーマパークです。人気の高いグランドポリネシアンショーは、毎日開催され、迫力あるファイアーナイフダンスと優雅なフラダンスをブルー島のステージで見ることができます。ギネスブックに掲載されている世界一の大露天風呂「江戸情話与市」があり、また、炭坑の町から再生を図るストーリーを描いた映画「フラガール」の舞台にもなっています。

がんばろう!

福島応援ツアー!

モデルコース

往復飛行機 1泊2日コース

1	伊丹空港 → 福島空港 → 猪苗代湖・野口英世記念館 → 磐梯高原・五色沼 → 東山温泉 (宿泊)
2	東山温泉 → 会津若松観光 (鶴ヶ城・武家屋敷・飯盛山) → 喜多方 (蔵とラーメンのまち散策) → 福島空港 → 伊丹空港

往復飛行機 2泊3日コース

1	伊丹空港 → 福島空港 → 高柴デコ屋敷 → 飯坂温泉 (宿泊)
2	飯坂温泉 → 吾妻小富士・浄土平 → 吾妻レクライン → 五色沼 → 野口英世記念館 → 芦ノ牧温泉 (宿泊)
3	芦ノ牧温泉 → 大内宿 → 塔のへつり → 会津若松観光 (鶴ヶ城・武家屋敷など) → 福島空港 → 伊丹空港

往復 JR 利用 1泊夜行コース

1	米原・長浜 <small>急行きたぐに</small> (車内泊)
2	新潟 → 喜多方 (蔵とラーメンのまち散策) → 会津若松観光 (鶴ヶ城・武家屋敷など) → 芦ノ牧温泉 (宿泊)
3	芦ノ牧温泉 → 大内宿 → 磐梯高原・五色沼 → 野口英世記念館 → 猪苗代湖 → 郡山 <small>新幹線</small> → 東京 <small>新幹線</small> → 米原・長浜

往復 JR 利用 2泊3日コース

1	米原 <small>新幹線</small> → 東京 <small>新幹線</small> → 郡山 → 高柴デコ屋敷 → 飯坂温泉 (宿泊)
2	飯坂温泉 → 吾妻小富士・浄土平 → 吾妻レクライン → 五色沼 → 野口英世記念館 → 東山温泉 (宿泊)
3	東山温泉 → 会津若松観光 (鶴ヶ城・武家屋敷など) → 大内宿 → 塔のへつり → 新白河 <small>新幹線</small> → 東京 <small>新幹線</small> → 米原

◎ 実際のご旅行にあたっては、上記モデルコースを参考に最寄りの旅行代理店等でご相談ください。

『滋賀から福島へ』観光ツアー推進協議会

事務局 滋賀県商工観光労働部観光交流局

〒520-8577 大津市京町4-1-1

TEL 077(528)3740

FAX 077(521)5030



大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」滋賀県推進協議会キャラクター

お問合せ

(財)福島県観光物産交流協会(観光部)
〒960-8053 福島市三河南町1番20号(コラッセふくしま7階)
TEL (024)525-4024 FAX (024)525-4087

福島県観光物産館(物産関係)
〒960-8053 福島市三河南町1番20号(コラッセふくしま1階)
TEL (024)525-4031 FAX (024)536-3188

福島県商工労働部観光交流局観光交流課
〒960-8670 福島市杉妻町2番16号
TEL (024)521-7286 FAX (024)521-7888